

経営者への活きた言葉

税理士法人 優和

TEL 03-3455-6666
FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

マイナス金利が促すフィンテックへの移行 野口 悠紀雄（早稲田大学ファイナンス総合研究所顧問）

1. 「マイナス金利は銀行の死をもたらす」という議論が、ヨーロッパのマイナス金利に関連してしばらく前からあった。日本でも、同じ問題が発生する可能性がある。銀行がマイナス金利に伴うコスト増を、預金金利引き下げなどの形で利用者に転嫁すれば、利用者の「銀行離れ」が起きるからだ。
2. 現在銀行が提供しているさまざまな金融サービスの中には、銀行を経由しなくても可能なものが多い。20年前であれば、銀行離れの手段は、キャッシュの保有しかなかった。しかし、いまでは、フィンテック（金融・ファイナンスとデジタル技術・テクノロジーの融合）の発展に伴って、銀行外金融取引の可能性は高まっている。マイナス金利は、フィンテックの発展を促す効果をもつのだ。
3. 二つのシナリオが考えられる。第一は新しいシステムが銀行の外でベンチャー企業などによってつくられるというもの。第二は、新しいシステムが中央銀行を離れて銀行を中心として構築されるというものだ。現在、金融庁や金融審議会が進めようとしている方向は、銀行がフィンテック関連のITベンチャーに出資することを可能とするものだ。つまり、銀行がフィンテックを行うための規制緩和であって、新しい事業主体から新分野に参入することを容易にする方向のものではない。つまり、第二のシナリオを促進しようとするものだ。

（参考：「週刊ダイヤモンド」2016年3月5日号）

経営者のための理念・哲学

過ぎ去ったことはくよくよしない

牛尾 治朗（ウシオ電機会長）

1. 私は若い頃、安岡正篤先生から「将らず、迎えず、応じて而して蔵めず」という言葉を教えてもらいました。
2. これは「莊子」の言葉なんです。過ぎ去ったことはくよくよ悔んだりしない。先のことをあれこれ考えて取り越し苦労をしない。事が来ればそれに応じて適切な措置で最善を尽くして決断する。その結果を淡々と受け止め、心に留めないことが大事だというわけです。私も経営に携わるようになって50年になりますが、試練に直面する度にこの言葉が大きな支えになりました。

（参考：「致知」：2016年5月号）

経営者のための経理学

決算短信や有価証券報告書でチェックする点

1. 営業キャッシュフローを安定的に稼いでいるか…本業の事業環境が安定しているか。成長しているか。その中で競争力があるかが分かる。
2. 自己資本比率が低すぎないか…1桁台は危険水域と言える。想定外の収益悪化にどの程度耐えられるのかを示す。
3. 売上高は伸びているか…製品やサービスが社会に必要とされているのかの尺度。安売りで消耗戦に陥っていないか。
4. 1人当たり収益率…一般的に営業利益を従業員で割った数値。生産性が高い半面負担も重い可能性あり。
5. 労働分配率…売上総利益に占める人件費の割合。従業員の働きぶりを重視しているかを示す。

（参考：「日経ビジネス」2016年2月29日号）

古典に学ぶ

心は生き物でありつねに輝く

（解説）王陽明の日本人の弟子の一人は言う。「天地生々の主宰、人にやどりて心となる。故に心は活物にして、常に照々たり」（天地と全生物の主は、人の心の中に宿し、人の心となる。ゆえに心は生き物であり、つねに輝く）と。また言う。「その本体の靈明は常に照々たり、その靈明人の意に渡らず、自然より発現して、よくその善悪を照らすを良知という、かの天神の光明なり」（われわれの本質的存在の靈的光明は純粹にして、人間の意志に左右されない。われわれの心からおのずから発現してきて、善悪の何たるかを示す。その時それは良心と呼ばれ、まさに天の神から出る光明である）と。

（参考：佐藤全弘訳新渡戸稲造著「武士道」：教文館）